KANSAI＊OSAKA

文化力

No.131
2019/WINTER・冬

2025年日本万博と関西経済の活性化

関西経済連合会会長 松本正義氏

関西・大阪21世紀協会設立35周年 成果報告&記念公演
Flügel abend 2018 ～未来へ羽ばたけ、大阪文化力～

トップインタビュー 企業と文化
株式会社りそな銀行 副会長 池田博之氏

助成事業の紹介
日本万国博覧会記念基金
アーツサポート関西

開催レポート
アートストリーム2018
第20回記念「上方花舞台」歌舞伎と日本舞踊の競演
「なにわの企業が集めた絵画の物語」展

公益財団法人
関西・大阪21世紀協会

表紙：藤岡幸夫さん
関西フィルハーモニー管弦楽団 首席指揮者

「いのち輝く未来社会のデザイン」
2025年日本万博と関西経済の活性化

約2年間にわたる官民一体の誘致活動が実を結び、2018年11月23日、BIE（博覧会国際事務局）総会（フランス・パリ）で、2025年国際博覧会の開催地が大阪・関西に決定した。日本ならではの誘致活動やこれからの課題、さらには関西経済の将来について、2025日本万国博覧会誘致委員会の会長代行であり、関西経済連合会会長の松本正義氏に伺った。

世界を駆け回る

日本は、全国6,000の企業と130万人の方々のサポートを受けて2025年万博の開催地に立候補しました。ですから、何が何でも誘致を成功させるんだという強い気持ちで活動に取り組んでまいりました。開催が決まった瞬間には、世耕弘成経済産業大臣をはじめ松井一郎大阪府知事、吉村洋文大阪市長、万博誘致委員会の榊原定征会長（経団連名誉会長）ならびに関西経済界の皆さんの喜びもひとしおでした。

誘致レースに臨んだのは日本とロシア、アゼルバイジャンの3か国でしたが、投票日の前日まで、どの国がリードしているのか全く票が読めませんでした。どの国がどんな国の要人に会ったかなどという情報はトップシークレットのため、各国がどんな活動をしているか全く分からないのです。

こうした状況の中、関西経済連合会は外務大臣から「ENVOY（エンボイ）＝特命大使」に任命された担当者二人を専任担当者に任命しました。この肩書きを持つと、各国の首相や大統領に直接会って話ができます。二人のうち一人はパリに常駐し、各国の大使館や総領事館を回って日本万博をPRして日本への投票をお願いしました。もう一人は文字通り世界中を飛び回り、各国の要人に会いました。彼は1年間で地球10周分も移動したそうです。議員の方々が海外に出向かれるときは、誘致委員会がつくったパンフレットを必ずお持ちいただきましたし、吉村市長には国連で演説されたときにPRしてもらいました。

万博誘致フォーラムで日本開催をアピールする松本氏（2018年10月9日 パリにて）

また、日本にはロシアやアゼルバイジャンにはない、大きな強みがありました。日本の大手商社が、世界中にネットワークを持っていることです。南米に強かったり、アフリカに強かったりと、商社ごとに強みとする国や地域は異なるのですが、私はそうした商社のトップに会い、現地法人の社長が各国と取引する際には、日本万博のことも必ずPRしてもらうようお願いしました。こうした商社のネットワークで誘致活動を応援していただいたことで、短期間で世界の隅々にまでアピールすることができたのです。

また、今回は開発途上国に対して、日本政府がパビリオンの建設費用やそのための旅費、宿泊費などの支援を表明したことも得票に結びついたと思います。

ソフトレガシーを次代へ

2025年日本万博の運営組織となる「2025年日本国際博覧会協会」は、政府、大阪府、大阪市、経済界などによって構成され、関西に設立されます。2020年5月までにBIEに登録申請書を提出しなければならないため、同協会ではこれから2025年日本万博のコンセプトを練り上げる作業にかかります。

今回のメインテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、サブテーマに「多様で心身ともに健康な生き方」と「持続可能な社会・経済システム」の二つを掲げています。会場の夢洲は、その実現に向けた「未来社会の実験場」というわけです。

今後、このテーマをベースに、1970年の大阪万博のときのように未来へのレガシーとなるコンセプトを立て、パビリオンやイベントなどの具体案へとブレークダウンしていかなければなりません。ただし、1970年の大阪万博と異なるのは、今回は「太陽の塔」のような象徴的な〝モノ〟をつくらないことです。つまり、未来につなぐレガシーは、ハードではなく〝ソフト〟であることを念頭に置かなくてはなりません。ソフトレガシーは伝え残す努力をしないと、すぐに風化してなくなってしまいます。ここが私たちの志の見せどころで、万博のコンセプトづくりにあたっては、学術界やマスコミ、アーティストなど、さまざまな分野の、さまざまな年代の人たちのアイデアを総動員してほしいと思っています。

また、万博は最先端技術の活用法を提示する創造的な場です。現代は、IoTやビッグデータ、AI、ロボティクスといったデジタライ

関西経済連合会 会長 松本正義氏に聞く

ゼーションが主流ですから、それらを使ってイノベーションを起こせるような人たちの知恵も必要です。また、関西は山中伸弥氏や本庶佑氏に代表される最先端医学の発祥の地であり、そのような無から有を生み出すアイデアも重要です。

産業界では今、国連のSDGsの達成や政府が提唱するSociety 5.0に向けた取り組みが進められています。それはそれで重要なのですが、そこに「文化」に対する問題提起がなければなりません。長い歴史と多様な文化をもつ関西なればこそ、万博においても文化を前面に出したアイデアがほしい。これについては、関西・大阪21世紀協会にも、ぜひご協力いただきたいと思います。

Look Westの視点

1970年大阪万博が開催された当時、関西のGRP（域内総生産）は全国の20%を占めていました。万博入場者は6,400万人を超え、多くの人が関西の明るい未来を想像しました。しかし、その後長らく景気が停滞し、現在は15%程度まで落ち込んでいます。一体、あの大阪万博は関西に何をもたらしたのでしょうか。万博が経済成長のスプリングボード（きっかけ）にならなかったのは、当時の産業インフラがしっかりしていなかったからです。

2025年日本万博では、IR整備やインバウンドの増加によって景気が上向くというセンチメント（市場心理）がありますが、経済とはそんなに単純なものではありません。

関西経済連合会は、産業インフラをしっかりしたものにするため、さまざまな提言や取り組みを行っています。例えば四つの産業クラスターの形成です。一つめは健康・医療産業分野で、健康・医療データの利活用による健康関連産業の振興や、産学官が連携して関西の健康・医療の先進地域ビジョンを実現すること。二つめは航空機産業への新規参入とマッチングの支援。関西には航空機のアッセンブリーメーカーが多いという強みがあり、近畿経済産業局などと連携して関西全体の関連産業を支援しようとしています。三つめは環境・エネルギー分野で、特に水素社会の実現に向けた機運醸成や関連産業の振興を目指す取り組みです。そして四つめが、AIやIoTを活用した新たなサービスの創出や生産性向上への支援です。これらは一朝一夕に実現するものではありませんが、産業クラスター形成のための環境づくりが経済団体の仕事ですので、関経連として注力しています。

また、「関西スポーツ振興ビジョン」を策定し、トップアスリートの育成に向けた産官学による仕組みの構築や、ラグビーワールドカップ（2019年）やワールドマスターズゲームズ（2021年）などのゴールデン・スポーツイヤーズを契機とした生涯スポーツの振興に向けた官民一体の取り組みを提案しています。

私は、関西にはさまざまな産業のリソースがあるのですから、「東京一極集中だからできません」というような風潮はあらためたいと思っています。「東京一極集中の是正」に固執するのではなく、関西がどのように発展していくのかを自分たちで考え、実行していくことこそ重要です。これから大事なのは、関西から見て東にある東京ではなく、西にあるアジアへ目を向ける「Look West」の視点です。これによってアジアなど関西の外から人や企業に関西に来てもらい、関西を舞台に活躍するための条件や環境づくりを整えていくべきだと思っています。

（2018年12月20日／関西経済連合会にて）

2025国際万国博覧会の日本開催決定の瞬間。右から松本正義氏、松井一郎大阪府知事、榊原定征万博誘致委員会会長、世耕弘成経済産業大臣（2018年11月23日・BIE総会にて）

文化庁の関西移転
大阪中之島美術館オープン
大阪万博開催

大阪・関西の新たな時代の幕開けに向けて

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会
会長　**森　詳介**

昨夏に関西・大阪21世紀協会の会長に就任いたしました森でございます。

1982年の設立以降、これまで大阪・関西の文化発展に取り組んできた当協会の会長となり、責任の重さに、身の引き締まる思いでございます。文化の振興を通じて、大阪・関西の経済、社会の活性化に寄与するという当協会の使命を果たすべく、貢献をしてまいる所存です。

さて、昨年の大阪・関西にとってのビッグ・ニュースは、なんといっても2025年の万博開催地が、大阪・関西に決定したことではないでしょうか。私も誘致委員会の副会長として、誘致活動に携わりましたが、大阪・関西で万博が開催できることが決まり、大変嬉しく思っております。

また、「人類の進歩と調和」という1970年万博のテーマと「EXPO'70基金」の事業を継承した当協会といたしましても、再び万博が開催され、あのときのように大阪・関西が世界から注目を集め、より活性化していくことを期待しています。「EXPO'70基金」事業では、1971年の基金創設以来、日本をはじめ世界114か国、約4,500件、総額192億円を文化的な活動や国際相互理解の促進に資する活動など国内外の文化交流、学術、教育等に対する助成金として交付してまいりました。今後、当協会では、文化人や有識者による研究会を立ち上げ、展示内容や2025年万博開催により未来に何を残すべきか等について議論をはじめるなど、万博開催に向けた準備を進めてまいりたいと考えています。

万博以外に、今年6月には日本で初めてのG20サミットが大阪で開催され、9月にはラグビーのワールドカップも開催されます。2021年度には、文化庁の京都移転や大阪中之島美術館のオープン、さらにはワールドマスターズゲームズというスポーツイベントも関西エリアを中心に開催されます。万博の開催場所となる夢洲には、MICE施設などの集客施設を含む統合型リゾート（IR）の誘致も進められています。このように、今後数年の間に、大阪・関西が盛り上がる国際的なイベントやプロジェクトが立て続けに開催される予定です。今年は平成から新元号になり、新しい時代が始まりますが、まさに、大阪・関西においても新たな時代の幕開けといったところではないでしょうか。

これから開催される様々なビッグ・イベントを通じて、大阪・関西がダイナミックに変わり、世界の都市間競争に打ち勝っていくためには、大阪・関西の強みをさらに引き出していくことが肝要です。関西には難波宮から数えると約1400年の歴史があり、その間に培われた文化があります。これまで時代が移り変わるなかにおいても、確固たる都市機能を有するとともに中心的な都市圏として大阪・関西は存在してきました。アメリカのシリコンバレーや中国の深圳（しんせん）を代表とする新たなメガシティが台頭していますが、中心的都市機能に加え、長い歴史と興隆した文化を併せ持つ都市は、世界にあまり類を見ないものであり、関西の強みの一つであると考えています。文化・芸術の振興は、観光収入の拡大や地域創生に繋がることはもとより、成熟化した社会において、新たな価値や技術などのイノベーションを創出する鍵となります。そのようなことからも文化・芸術の振興の一翼を担う当協会の役割は、益々、重要性が高まっていくものと認識しています。

今後、当協会では、ユネスコの無形文化遺産に登録された和食をテーマに、人類の長寿・健康に貢献する関西の和食を深掘りする「インターナショナル和食フォーラム」や世界に羽ばたく若手アーティストの発掘と支援を目的としたイベントなど、文化・芸術の振興に寄与する事業を積極的に推進してまいります。

加えまして、当協会の運営におきましては、組織の活力を維持・向上していくために、たゆまぬ変革をより一層進めるとともに、外部組織との連携・協力の強化を図りつつ諸課題に対処し、世界都市大阪、そして関西のために全力を尽くして取り組む所存であります。

会員各位、ご関係の皆様方のさらなるご支援・ご協力をお願いいたします。

森　詳介（もり しょうすけ）
1963年京都大学工学部電気工学科卒業、関西電力株式会社入社。1999年同社常務取締役、2001年同社取締役副社長、2005年同社取締役社長、2010年同社取締役会長、2011年関西経済連合会会長などを歴任。2016年より関西電力株式会社相談役を務める。

関西・大阪21世紀協会　―2019年度の事業骨子―
- 2025年万博の理念や成果を未来に伝え残すための活動
- 人類の進歩と調和に資する活動への助成
- 世界に羽ばたく若手アーティストを発掘、支援する活動
- 上方の伝統文化や行事の魅力を国内外に発信する活動
- 新元号奉祝とBEYOND2020に向けたイベントなどの実施
- 長寿、健康に貢献する「和食」を考え、国内外に発信する活動　など

EXPO 2025 OSAKA, KANSAI, JAPAN

（画像提供：経済産業省）

BIE総会で語られた日本万博開催への思い

日本が万博開催国に立候補したのは2017年4月。以後2018年6月まで、BIE（博覧会国際事務局）総会でのプレゼンテーションを3回おこなった。

第3回のプレゼンテーション（2018年6月13日）では、京都大学医学部の学生・川竹絢子氏のオープニングスピーチに続き、京都大学iPS研究所所長・山中伸弥氏、安倍首相（ビデオメッセージ）、世耕経済産業大臣、誘致委員会会長の榊原定征氏、サントリーホールディングス執行役員の福本ともみ氏が登壇。日本は万博の開催経験が豊富であることを強調したうえで、2025年は「Human　Lives（いのち）」をテーマとした新しい万博であることをアピールした。また、万博に参加する開発途上国に対しては、パビリオンの建設費用や旅費・滞在費などのサポートを表明。国連が採択したSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて、経済界をあげて取り組んでいることも強調した。

川竹絢子氏のスピーチ

（経済産業省ホームページより）

BIE第163回総会（2018年6月13日／フランス・パリ）

川竹絢子氏

BIE会長、代表のみなさま、私は川竹絢子と申します。私は、ある末期がんの女性と出会いました。一体何が彼女のいのちを支えていたのでしょうか？それは、薬ではなく、彼女を気にかける医師との会話や、彼女を愛する家族との静かなひとときでした。

私は関西で医学を学ぶ学生です。これまで幸運にも、最先端の医療で多くのいのちが救われる感動的な場面を目の当たりにしてきました。しかし一方、私たちのいのちを支えるのは医療だけではなく、人や社会とのつながりだと思うのです。

そんな想いから、私は異なる分野の人たちと一緒に、ヘルスケアについて考える大阪・関西の学生団体を共同で立ち上げました。私たちの企画するプロジェクトでは、非医療者の方々も含む参加者が、社会のヘルスケアの課題を解決するアイディアを考えています。

この理念をもとに活動を進める中で、全ての人が参加し、「いのち輝く未来社会」を共創していく、という2025年大阪・関西万博にとても共感しました。

現在、私たちは、同じ志を持つ世界の若者を巻き込みながら、大阪・関西万博誘致を目指して活動をおこなっています。

2025年。この動きを引っ張っていくのは、私たち若者です。これから先に続く世代のために、あるべき未来を描く。若者に賭けてください。一緒なら、きっと実現できます。

では、未来社会を描くにあたってのロールモデルである、ノーベル賞学者、山中教授をご紹介しましょう。

（OECDカンファレンスセンター／仮訳〔原文は英語〕）

SDGsの達成を後押し、国家戦略のSociety 5.0*に整合

2025日本万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」。経済産業省がBIEに提出した立候補申請文書では、その開催意義について、国連のSDGs達成目標（2030年）まで残り5年となる2025年は、日本万博がそれを後押しすると明記。日本にとっては約2兆円の経済波及効果や、さまざまな分野のクリエイターの才能を世界に示すチャンスであり、国家戦略であるSociety 5.0にも整合するとしている。開催地の大阪・関西については、世界的レベルにあるライフサイエンスやバイオメディカル分野の拠点機能をさらに伸ばす機会であることや、豊富な文化遺産や長い歴史を誇る大阪・関西が、異なる文化との交流を通じてさらに豊かなものになるとしている。

万博会場の基本コンセプトは「未来社会の実験場」。ICT（情報通信技術）を利用して、来場者だけでなく全世界の人々がVR（仮想現実）による参加・体験を可能にするもので、それによって新しい価値観や社会・経済システムを共創できる仕組みづくりを目指す。

会場予定地の夢洲では、中央部にパビリオンを配し、海に面して水上施設や緑地帯が設けられ、来場者は朝夕の瀬戸内海の美しい景観を楽しむことができる。個と個の関係や多様性によって共創される「未来社会」のコンセプトに則して、「お祭り広場」のようなシンボルエリアは設けられない。また、会場内ではAR（拡張現実）やMR（複合現実）技術を活用した展示やイベントを予定している。

＊Society 5.0 …狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、新たな社会を示す概念。IoTやAIなどを最大限活用し、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会。

2025日本万国博覧会
2025年5月3日（土）～11月3日（月）185日間（予定）
テーマ　いのち輝く未来社会のデザイン
サブテーマ　①多様で心身ともに健康な生き方
②持続可能な社会・経済システム
メイン会場　夢洲（ゆめしま）
参加国（目標）　150か国を含む166の参加機関
来場者（想定）　約2,800万人（バーチャル来場者：最大80億人）
経済波及効果　約2兆円（試算値）

関西・大阪21世紀協会 設立35周年
成果報告 & 記念公演

2018年10月5日／NHK大阪ホール

成果報告

さまざまな文化事業や年間延べ600万人以上

文化事業

アートストリーム2018（大丸心斎橋店）

大阪文化祭賞贈呈式（リーガロイヤルNCB）

平成OSAKA天の川伝説（大川・天満橋～北浜周辺）

関西・大阪21世紀協会
理事長　堀井良殷

関西・大阪21世紀協会は、35年にわたりさまざまな文化活動やアーティストへの支援、関西・大阪の文化力を高める提言や社会実験などを行ってまいりました。今日まで続けることができたのは、賛助会員の皆様をはじめ各界の方々のご理解とご協力のおかげであり、心より感謝申し上げます。

21世紀に入って当協会は、美しい水の都をつくろうという運動を提案し、推進してまいりました。そうして市民が動き、ボランティアやアーティストが参加するなど官民あげての努力で、中之島一帯や道頓堀川など川辺の風景が一変しました。今やそうした水辺は観光スポットになり、近隣に高層住宅も立ち並び、経済効果をあげています。

35年前、先輩諸氏が高い志をもって立てられた「大阪21世紀計画（1982年）」は、現在、さまざまな形で発展しています。当協会は5年前から、上方伝統芸能の振興事業や1970年日本万博の理念を伝える日本万国博覧会記念基金助成事業、皆様の寄付によってアーティストの活動を支援する「アーツサポート関西」事業などを相次いでお引き受けしております。

例えば上方文化芸能の振興事業では、今宮戎神社十日戎「宝恵駕行列」や「堂島薬師堂節分お水汲み祭り」、「住吉大社御田植神事」などを支援しています。いずれも毎年大勢の見物客で賑わい、内外に発信され、大阪のブランド力を高めています。

また、「アーツサポート関西」事業では、発足から4年間に1億円のご寄付をいただき、若い人の文楽鑑賞機会の提供（ワンコイン文楽）や、若手噺家の技能向上と落語ファンの裾野を広げる「上

・日本万国博覧会記念基金助成事業承継5年
・「アーツサポート関西」支援5年
・上方文化芸能振興事業承継5年

助成・支援を通して、に思いを伝えています。

方落語若手噺家グランプリ」、天空の「天の川」を川面に再現する「平成OSAKA天の川伝説」、音楽や絵画のアーティスト支援などを続けています。そのなかには海外で活躍する周防亮介さん（ヴァイオリニスト）のような才能も育っています。

日本万国博覧会記念基金助成事業では、基金創設以来114か国、約4,500件、総額約192億円の助成実績を積み重ね、国際相互理解と文化学術教育を支援するとともに、日本の心を世界に届けてまいりました。

さらに、新進気鋭のアーティストに飛躍のきっかけを提供する「アートストリーム」、当代一流の「知」が集まる「関西・大阪文化力会議」、文化芸術活動でめざましい成果をあげた人を顕彰する「大阪文化祭賞」、2020年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムでもある「大阪城サマーフェスティバル」など、当協会が主催・共催する文化事業や年間150件にのぼる後援事業に関係する全ての人たち（出演者、スタッフ、観客動員）を合わせると、年間延べ600万人以上（2017年度は約660万人）に私たちの思いをお伝えできているのではないかと思っています。

2018年の日本列島は、地震や台風など災難続きでした。しかし私たちは、こうした自然災害はもとより、社会・経済のさまざまな困難に直面しても、未来に向かって力強く生きていかなければなりません。事実、そうした中にあって大地に根をおろし、文化を人生の糧として元気に活動している人々がたくさんおられます。そうした人たちを応援し、つなぎ、ほめたたえることこそ、社会に魅力と活力、地域のブランド力を高める根源であると思います。

時代の荒波が次から次へと押し寄せてきますが、最後に残るのは文化だと思います。文化は私たちに勇気と元気、そして新時代を開く創造力を与えてくれます。そうしたさまざまな文化がいっぱいに音色を出し、オーケストラのごとく大きな響きになることを願っています。

上方文化芸能振興事業

今宮戎神社十日戎「宝恵駕行列」

御田植神事（住吉大社）

アーツサポート関西

「ワンコイン文楽」への支援

上方落語若手噺家グランプリ
（天満天神繁昌亭）

万博記念基金助成事業

日 本
46都道府県・3,487件
122億5,358万円

北アメリカ
10か国・285件
18億889万円

南アメリカ
10か国・90件
7億9,895万円

過去48年間の助成累計
114か国、約4,500件、総額約192億円

2017年度の参加人数 （人）

	主催	共催	助成/後援
文化事業	2,675	1,009,104	
上方伝統文化振興事業	740		
日本万国博覧会記念基金助成事業			1,122,284
アーツサポート関西			15,483
後援事業			4,460,405
小計	3,415	1,009,104	5,598,172
合計	6,610,691		

記念公演

2018年10月5日/NHK大阪ホール

～ 未来へ羽ばたけ、大阪文化力 ～

Flügel abend 2018

＊Flügel（フリューゲル：翼）、abend（アーベント：夕方、夕べ）

第１部では、これまでに当協会が支援・応援した関西を代表する優れたアーティストたちの活動をご紹介し、引き続き第２部では、洋と和の伝統芸能、バレエと浪曲を組み合わせて相互の理解を深めるという新たな創造にチャレンジしました。NHK大阪ホールは、埋めつくされた1,100人の観客による大きな拍手の渦に包まれました。なお、この公演は、日本の強みである地域の豊かで多様な文化を活かした成熟社会の創出を目指し、文化庁が推進する2020年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラム「beyond 2020」にも呼応しています。

beyond 2020

主催：関西・大阪21世紀協会
共催：大阪文化芸術フェス実行委員会
協力：NHK大阪放送局
後援：関西経済連合会、大阪商工会議所、関西経済同友会、大阪観光局

バレエ⊗オーケストラ⊗浪曲

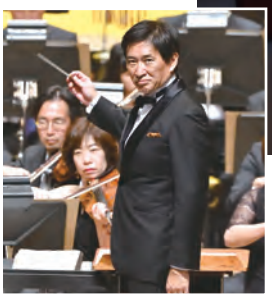
地主薫バレエ団、春野恵子さん（浪曲語り）、一風亭初月さん（三味線）、藤岡幸夫さん（指揮）、関西フィルハーモニー管弦楽団

チャイコフスキー『眠れる森の美女』より～East meets West～

グリム童話『眠れる森の美女』の各シーンを、心揺さぶる三味線の調べにのって五・七・五調の浪曲で語り、オーケストラの演奏に合わせてバレエで踊るという、これまでにない実験的な舞台構成に驚かされ、情感溢れる浪曲の語りと美しいバレエ、オーケストラの高揚感に、終演後、会場からは「ブラボー！」の声が連呼。興奮と感動に包まれました。

来場者の年齢層は10代から80代までと幅広く、男女比はほぼ同数。当日のアンケートでは、「浪曲でストーリーが語られるので、バレエのシーンが分かりやすかった」というご感想や、「バレエやオーケストラに対して近寄りがたいイメージがあったが、とても親しみやすさを感じた（10代女性）」「バレエと浪曲のコラボで、両方の理解が深まった（60代男性）」「オペラやクラシックバレエ、浪曲が一堂で鑑賞できてよかった（50代女性）」「非常に興味深いチャレンジで、まだまだ可能性を感じる。もっと進化していくことを期待する（50代男性）」、さらには「世界初、誰が思いついたか素晴らしい発想。生きているうちにこのような素晴らしい（奇想天外な）企画に出逢うことができたことを幸せに思う（80代男性）」「どの分野も超一流で、それが見事に合体してこれ以上の贅沢はない（50代女性）」など、多くの方から好評をいただきました。運営にあたっては留学生の協力もあり、舞台を鑑賞して「こんな体験は初めて。留学して最初の思い出になった」との声もありました。

春野恵子さん（左）と一風亭初月さん（右）



藤岡幸夫さん

Flügel abend 2018を振り返って

春野恵子さん
（浪曲師）

関西フィルハーモニー管弦楽団と地主薫バレエ団の「眠れる森の美女」のストーリーテラーをさせていただきました。私自身、初めての試みでしたが、オーケストラとバレエの迫力を間近に感じながら、楽しく語らせていただきました。普段、浪曲を聞く機会のない方にも、耳を傾けて頂けて嬉しかったです。またこのような機会があれば、ぜひチャレンジしたいと思っています。

東京都出身。二代目春野百合子師に弟子入り後、2006年に初舞台。全国各地で年間200回の浪曲公演を行うほか、欧米など海外公演も精力的にこなす。2012年咲くやこの花賞、2014年関西元気文化圏賞、2018年大阪サクヤヒメ賞を受賞。公益社団法人浪曲親友協会理事。

一風亭初月（いっぷうていはづき）

和歌山県出身。英知大学文学部英文学科卒業後、OLを経て1998年藤信初子師に入門、2000年デビュー。多数の地方公演に加え、春野恵子さんと共に海外公演も行う。公益社団法人浪曲親友協会理事。

フロレスタン王と同妃の前で、
王女（オーロラ姫）の誕生を祝って
妖精たちが踊る。

そこへ邪悪な妖精（カラボス）が現れ、
「王女は16歳の誕生日に糸紬ぎの針に
刺されて永遠の眠りにつくであろう」と
呪いをかける。

王女16歳の誕生日。
祝いの席に現れた老女（カラボス）が、
毒針をしのばせた花束を渡し、それが
刺さって眠りにつくオーロラ姫。

100年後、狩りをして森にやってきた
デジレ王子が眠っている王女を見つけ、
接吻をすると…。

Flügel abend 2018 を振り返って

地主 薫さん
（地主薫バレエ団主宰
演出・振付）

バレエと浪曲がうまくコラボレーションできるのか不安はありましたが、ご来場者の皆様から「バレエのあらすじが分かりやすく語られ、とても楽しめた」という感想をいただき、うれしく思いました。また、世界最高レベルのアーティストの方々とご一緒させていただき、いろいろな芸術・芸能の素晴らしさを勉強させていただきました。今回の舞台公演をつくられた関西・大阪21世紀協会の皆様のお力も強く感じました。今後もこうした文化活動やアーティスト支援を通じて、関西・大阪から世界へ羽ばたく人たちが増えればいいなと思います。出演者全員がフィナーレで歌った「花が咲く」は、私自身とても感動しました。私たちが元気に日々活動できることに、心から感謝したいと思います。

地主薫バレエ団：地主薫さん主宰。2008年大阪文化祭賞でバレエ界初の大阪文化祭賞グランプリに輝き、2014年文化庁芸術祭舞踊部門大賞、2016年同優秀賞を受賞。付属のバレエ学校を設立し、若い人材の育成にも力を注いでいる。

呪いが解け、王女も宮廷の人々も
長い眠りから目をさます。

森の中では、赤ずきんちゃんと狼の
コミカルな掛け合いも。

～金メダルを目指して～

地主薫エコール・ド・バレエの生徒たち

ショスタコーヴィッチ『バレエ組曲第４番より“スケルツォ”』

「beyond 2020」プログラムに呼応して作られた演目。陸上、体操、ボクシング、空手、野球などの選手に扮した８人のダンサーが、関西フィルハーモニー管弦楽団の演奏に合わせてバレエでオリンピックの種目をコミカルに表現しました。

関西フィルフィルハーモニー管弦楽団

地主薫エコール・ド・バレエの生徒たち

Flügel abend 2018 を振り返って

©SHIN YAMAGISHI

藤岡幸夫さん
（関西フィルハーモニー管弦楽団 首席指揮者）

関西・大阪21世紀協会の皆様、設立35周年おめでとうございます！　私は来年で関西フィルとの20年目のシーズンを迎えますが、これまで協会の皆様には多大なるご尽力を頂き心より感謝いたしております。10月5日の公演は、協会ならではの斬新なアイディア、春野恵子さんの浪曲と地主薫バレエ団のコラボ!! というびっくりするような企画で、演奏している私たちも大変楽しませていただきました。若きヴァイオリニスト・周防亮介さんとの共演は、関西出身の素晴らしい才能を積極的に応援するという、大変意義ある協会ならではの企画だったと思います。これからも関西の文化芸術の発展のため、どうかよろしくお願いいたします!

東京都出身。2007年より関西フィル首席指揮者。BSテレ東の音楽番組「エンター・ザ・ミュージック」（毎週土曜夜11：30）に出演中。Twitterアカウント @sacchiy0608

関西フィルハーモニー管弦楽団

1970年創立、2020年に50周年を迎える。世界的ヴァイオリニストのオーギュスタン・デュメイが音楽監督、藤岡幸夫が首席指揮者、飯守泰次郎が桂冠名誉指揮者に着任している。

ヴァイオリン周防亮介 × 関西フィルフィルハーモニー管弦楽団

関西から世界へ羽ばたく

ヴァイオリン　周防亮介さん（ASK支援アーティスト）
指揮　藤岡幸夫さん

P.Iチャイコフスキー
『ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35』より第１楽章

スイス留学中の周防亮介さんが、このステージのために帰阪。繊細かつ力強い演奏で来場者を魅了しました。藤岡さんや関西フィルとは初共演の周防さんは、演奏後、「団員の方々の中には、子供の頃に音楽教室でご指導いただいた先生や先輩がおられ、親しみをもって演奏させていただいた。音楽やヴァイオリンの魅力を伝えられる演奏家をめざして、これからも地道に勉強を重ねたい」と語りました。

周防亮介さん
1995年京都生まれ。東京音楽大学アーティスト・ディプロマコースを首席で修了し、メニューイン国際音楽アカデミーにてマキシム・ヴェンゲーロさんに師事。国内外の主要オーケストラとの共演も多い。2018年大阪文化祭賞奨励賞ほか受賞歴多数。

大阪コレギウム・ムジクム合唱団

指揮・演出　当間修一さん

室内オペラ ＜清姫 ― 水の鱗＞

1975年に創設された大阪コレギウム・ムジクム合唱団は、ドイツやイタリアなどでの公演歴も多く、ヨーロッパ各国で絶賛されています。主宰者の当間修一さんは、文化庁芸術祭優秀賞（1998年）や大阪文化祭賞グランプリ（2011年）などを受賞。同合唱団を率いて数々の公演を行うほか、日本福音ルーテル大阪教会（大阪市中央区）で毎月演奏会を開催しています。

今回の記念公演では、安珍・清姫の悲恋物語の名場面が、二人の独唱と混成合唱で上演されました。また、この日のオープニングとして、自然とともに生きる人間への讃歌『みさかえ は あれ（宮沢賢治詩、千原英喜作曲）』と、ベートーヴェンが平和を願って作曲した『交響曲第９番』の２曲が披露され、ホールは厳かなムードに包まれました。

ストーリー　修行僧・安珍と美しい娘・清姫が旅の途中で出会い恋に落ちる。しかし、修行中の安珍は断腸の思いで清姫と別れ、清姫は悲しみのあまり亡くなって大蛇と化す。折しも安珍は道成寺の火災に遭って大釣鐘の中に閉じ込められ、その窮地を救うべく大蛇（清姫）が灼熱の釣鐘に巻き付くが共に絶命。二人は死んでのち永遠に寄り添う。

横畑真季さん
（清姫:ソプラノ）

阿部剛さん
（安珍:テノール）

大阪コレギウム・ムジクム合唱団

当間修一さん

木下亜子さん（ピアノ）

Flügel abend 2018 を振り返って

大西 毅さん
（演出家）

昨年、一作年のNHK大阪ホールでの公演（交響楽 能）に引き続き、台本制作と演出を担当させていただきました。今回は、私の今までの仕事の中で一番悩んだ作品になりました。様々なパターン・展開が存在し、元々セリフがないバレエの演目を浪曲の台本に落とし込むのにとても苦労しました。もしかするとメルヘンを浪曲で語られたのは初めてではないかと思います。また、バレエ、浪曲、交響楽それぞれの舞台に集中できるよう、あえて字幕や音声ガイドを使用せず、ぞれぞれの出番を分けて進行する構成にこだわりました。浪曲やバレエだけでも十分にお楽しみいただけたと思います。

2018年度

日本万国博覧会記念基金 助成先の事業紹介

今年度助成の42事業の中から、主な事業報告をご紹介します。

Peace Art Project in ひろしま「平和と美術と音楽と」

事業者：**Peace Art Project in ひろしま実行委員会**
交付決定額：110万円
実施期間：2018年4月25日～27日、8月2日～6日、9日～27日
実施場所：ウクライナ（キエフ・スラブチチ）、広島県（旧日銀広島支店）、長崎県（長崎平和会館）など

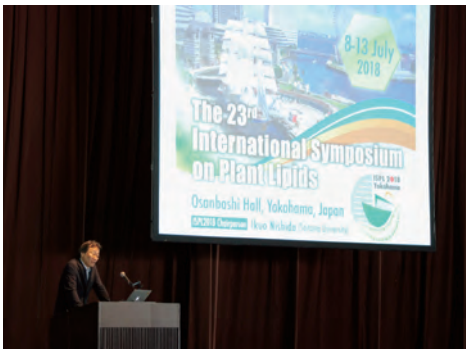
原発事故で放射能被害を受けた福島県、ウクライナと、原爆が投下された広島県、長崎県のアーティストたちが連携し、真の平和の構築を願い、世界に向けて美術や音楽を通じて夢や希望、癒し、祈りの心を訴求しました。

2018年4月末、広島と長崎のアーティストが「被爆バイオリン」を携えてチェルノブイリ原発慰霊祭と関連イベントに参加。広島・長崎からの訪問に、現地では大きな反響を呼び、感動的な交流の場となりました。また、8月の開催では、その1か月前に西日本豪雨が発生したことから、被災者への鎮魂と祈りから始まりました。国内外から約2,300人の参加があり、大盛況。

長崎では、被爆バイオリンと平和への願いを込めたアート作品のコラボレーションが行われ、アートを通して平和を発信する意義深いイベントとなりました。

第23回国際植物脂質シンポジウム

事業者：**日本植物脂質科学研究会**
交付決定額：150万円
実施期間：2018年7月8日～13日
実施場所：神奈川県　大さん橋ホール



本会議は、1974年にヨーロッパの研究者を中心に始められた歴史と伝統ある国際会議です。植物脂質は古くから産業原料として生活に深く関わってきましたが、最近では植物や微細藻類の脂質を再生可能なバイオ燃料として利用する研究が注目されています。本会議は植物脂質研究の最先端を国内外に広く発信し、情報交換の場を提供するとともに、発展的な国際共同研究などの機会を生むことで、多くの課題を解決することを目的としています。

今回は日本で開催されたことにより、わが国の植物脂質科学研究の成果を広く国内外に発信し、本研究分野の発展に大きく寄与することができました。

巨大な会場空間には、講演スペース、ポスター展示、企業展示、ティーラウンジがあり、横浜港を一望できる会場は、国際会議の内容と合わせ、多くの参加者から大変高い評価を受けました。

日仏友好芸術交流事業
鼓童 × 太陽劇団『Kodo Soleil プロジェクト』

事業者：公益財団法人鼓童文化財団
交付決定額：220万円
実施期間：2018年7月17日～22日
実施場所：フランス 太陽劇団敷地内屋内公演会場　Théâtre du Soleil

国際的な舞台芸術活動を積極的に行ってきた太鼓芸能集団鼓童と、フランス現代演劇を代表する劇団として半世紀近く活動する太陽劇団による、舞台芸術を通じた交流プロジェクトです。鼓童の若いメンバー10人がパリ郊外にある太陽劇団の拠点に滞在し、公演、ワークショップなどを行い、太陽劇団やフランスの観客と交流を深め、今後の共同事業や交流に向けた基盤づくりを行いました。

公演の総入場者数は3,191人にのぼり、公演を重ねるごとに動員数も伸び、最終日は見切れ席や立見席も観客で埋まり、毎公演ともスタンディングオーベーション、拍手喝采が鳴りやみませんでした。鼓童のメンバーは滞在期間中、太陽劇団の団員やスタッフと寝食を共にし、楽器を持ち寄ってお互いの国の曲をセッションするなど、普段の生活では想像できなかった交流を持つことができました。ワークショップでは、和太鼓の演奏だけにとどまらず、日本文化や日本人の精神も伝えることができました。

たんに公演を行うだけではなく、互いの文化を学び、認め合うという信頼関係を築くことにつながりました。共に刺激を受け合い、今後のそれぞれの創造力を高め、そしてさらなる交流を深める確かな一歩となりました。

小松サマースクール２０１８

事業者：小松サマースクール実行委員会
交付決定額：140万円
実施期間：2018年８月３日～９日
実施場所：石川県小松市　里山自然学校　小松総合研修センター

高校生が国際的視野を持ち、未来を切り開く力を身につけることを目的とするサマースクールを開催。全国から60人の高校生を募集し、日米の大学生が指導する少人数の英語セミナーや、各分野で活躍する社会人との交流を行い、これからの生き方を考える機会を提供しました。

受講した高校生60人、社会人講師16人、大学生スタッフ約50人の総勢約120人が一堂に集い、1週間寝食を共にして、さまざまなことを語り合いました。こうした体験は高校生にとって初めてのことであり、ときに悩み、ときに語り、それぞれの方法で各人がかかえる壁を打破していく様子が印象的でした。

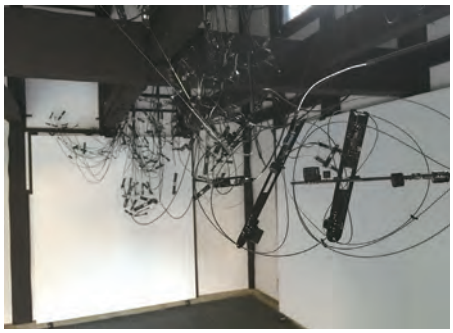
全国のできるだけ多くの高校生に参加してもらいたいと思いつつも、諸経費がかさみ参加費の値上げを検討せざるをえない状況でしたが、万博記念基金の助成が決まり、例年通りの参加費用で開催できました。

※写真は各事業者より提供

日本電通メディアアート支援寄金の助成決定

ITサービス事業などを行う大阪の企業、日本電通株式会社が、同社の創業70周年を記念し、2017年に「日本電通メディアアート支援寄金」を設立。関西に拠点を置くメディアアーティストの活動を支援していくこととなりました。その初年度となる2018年は、林智子さん、三原聡一郎さん、林勇気さん＋SJQの3組のアーティストに総額100万円が助成されることが決まり、すでに助成を受けた活動が始まっています。

林智子さんは向き合う二つのiPhoneに目の表情を映し出し、その間でアイコンタクトが起きると周囲の光などが変化する作品《Phyche》を制作。2018年9月に台湾で開催された国際グループ展で発表しました。三原さんは、同年10月に京都の伝統的民家のスペース「瑞雲庵」で開催した、自ら企画した展覧会「空白より感得する展」で作品《moids ∞》を展示しました。この作品は、音に反応して青白いスパークを発生させる小さな装置を数百単位でつないだもので、古い蔵の中で微細な破裂音とともに青白い光が明滅する幻想的な光景を生み出しました。また、林勇気さん＋SJQは、観客がスマホなどから入力するデータをもとにAIが生成する無数の人工生命体のモデルを、フロアに置いた大型スクリーンに投影し、それらが成長する様子を見せる大掛かりな作品《遣り取りのゆくえ》を2019年3月に大阪市内で展示する予定です。日本電通メディアアート支援寄金の今後の展開が期待されます。



三原聡一郎＋斉田一樹《moids ∞》
Photo：@三原聡一郎

ASK支援アーティストが関西経済同友会でパフォーマンスを披露

アーツサポート関西は、関西経済同友会の提言をもとに2014年に設立され、同会に所属する企業・個人から多くのご支援をいただいてきました。そこで、「支援先の見える化」を図り、2018年6月から同友会の月例幹事会の後に行われる放談会（懇親パーティー）にASKが支援してきたアーティストを招き、パフォーマンスを披露していただく取り組みを開始。

これまでにクラシックギタリストの山口莉奈さん、日本舞踊・上方舞楳茂都（うめもと）流の楳茂都梅弥月（うめみずき）さん、世界的に活躍するヴァイオリニストの周防亮介さんにお越しいただきました。通常のコンサートでは幕が下りれば演者と観客は離れ離れとなりますが、この放談会では関西経済同友会会員のエグゼクティブの方々と語らうことができ、企業関係者はアーティストの苦労や最近の活動、将来の夢などに熱心に耳を傾け、「この支援先の見える化によってアーティストを身近に感じることができた」と好評を博しました。

楳茂都梅弥月さん（三味線は菊央雄司さん）
（2018年10月23日）

2018年度 助成先のご紹介

志芸の会「キッズ狂言」（「八千代電設工業伝統芸能支援寄金」助成事業）

神戸を中心に活動する狂言師の会「志芸の会」は、能楽の普及・振興を目的に1999年に創設。毎年、小学生対象の「キッズ狂言」を開催しています。ASKは「八千代電設工業伝統芸能支援寄金」から50万円を助成しました。

「キッズ狂言」は、小学校へ出向いて5、6年生を対象に行う出前狂言から始まります。子供たちは狂言に出てくる昔の言葉や独特の仕草などをクイズ形式で学び、実際に狂言も鑑賞します。引き続き夏休み期間中には狂言の実演に向けたワークショップを5回にわたり開催。募集チラシを見て応募した約10人の子供たちは、狂言の台詞や発声方法、動き、相手との間合いの取り方などをプロの狂言師から教わりました。ワークショップは経験者と初心者に分かれて行いますが、驚くべきことに初心者の子供でもわずか5回のワークショップで台詞、発声、動きを覚え、大きなホールに設けられた能舞台で見事に演じました。こうした地道な取り組みは、将来の能狂言の鑑賞者や演者の育成、さらにはその普及に貢献することにつながる極めて重要な支援です。

キッズ狂言会（神戸市灘区民ホール）
（写真提供：志芸の会）

ハーベストコンサート「第73回&第74回 朝の光のクラシック」（「北倶楽部記念寄金」助成事業）

未来を予感させる若い演奏家たちの高い水準の演奏を、週末のすがすがしい朝の光とともに聴かせる「朝の光のクラシック」は、クラシック音楽を気軽に楽しんでいただくための1,000円という手頃な価格も功を奏し、毎回大好評。その開催は70回を超えました。通常は国内の演奏家が出演していますが、このたびASK「北倶楽部記念寄金」から45万円の助成を受け、海外で活躍する二人の若い女性演奏者を招いたコンサートが開催されました。

第73回コンサート（2018年7月16日／ザ・フェニックスホール）では、ウィーン在住のヴァイオリニスト・登坂理利子さんが演奏。モーツァルトやR.シュトラウスなどの名曲を超絶的なテクニックで弾きこなし、聴衆を魅了。

つづく第74回コンサート（同年9月7日／クラブ関西）には、BBC交響楽団のヴィオラ奏者・牧野葵美さんが登場。英国の音大で学んだ牧野さんは、ピチカート奏法だけで演奏する19世紀末のデカダン的な雰囲気が漂う曲を披露するなど、見事なテクニックで芸術の奥深さを伝えました。

登坂理利子さん

牧野葵美さん

一般社団法人タチョナ「庄内つくるオンガク祭 2018」（一般公募助成事業）

タチョナは、アートを取り入れたワークショップを企画・考案し、地域のアートセンター、小学校、自治体などと連携して、子供たちに表現することの楽しさや感動を体験させ、生きる力を養う学びの場の創出に取り組んでいます。「庄内つくるオンガク祭」は、豊中市南部の庄内地域の子供たちを対象に、既存の楽器や譜面を使わず、ワークショップと演奏会を通して楽しく音楽を体験させるプロジェクトです。ASKは一般公募助成対象としてこの活動に50万円を助成しました。

このプロジェクトでは、音楽やアート的な発想を体験することで、子供たちに新たな視点や意識を持ってもらうことをねらいとしています。アフリカン・パーカッション奏者のンコシさんとドラム奏者のPIKAさんの二人による計16回の連続ワークショップで、子供たちはオリジナルの楽器を作り、作曲し、演奏を体験。その集大成となる大阪音楽大学でのコンサートでは、100人を超える来場者を前に自分たちの音楽を見事に演奏し、大きな拍手・喝采を浴びました。

庄内つくるオンガク祭2018（大阪音楽大学）
（写真提供：タチョナ）

ANEWAL Gallery レジデンシープログラム（一般公募助成事業）

ANEWAL Galleryは、京都の町屋を拠点に、アーティストやデザイナー、カメラマン、アートディレクターなどが集まり、美術・デザインを介した地域の文化資源の再発見や、アートと地域の人々との協働などを図ることを目的に2004年に設立されました。近年は、海外からアーティストを招聘し、京都の町屋で暮らして地域企業や寺社、伝統芸能などとの接点づくりへ積極的に力を注いでいます。アーティスト・イン・レジデンスには、現在三つの町屋が活動の拠点となっています。

ASKはこのプログラムに対して、2018年に一般公募助成対象事業として20万円を助成しました。同年4月11日～29日に開催されたフランス人アーティスト、ニコラ・オーヴレイさんの写真展「LISA」をはじめ、同年4月26日～5月13日に開催された国際的なグループ展「Multi Layered Indentities」、同年10月5日～13日に開催された二人のフランス人建築家を招いて行われた「町屋の教え展」など、京都の町屋を舞台に、インターナショナルな広がりを地域に密着したプログラムの中に取り込んだ、大変興味深い活動を展開しています。

（写真提供：ANEWAL Gallery）

開催成果を「大阪中之島美術館」へつなぐ

「なにわの企業が集めた絵画の物語」展

2018年10月4日～18日／堂島リバーフォーラム

主催：関西経済同友会 企業所有美術品展 実行委員会
協力：京都造形芸術大学　**運営協力**：関西・大阪21世紀協会

挿し絵は切り貼り絵アーティストのキイロノハサミさん
（アートストリーム2017・アーツサポート関西賞受賞）

マリー・ローランサン「ボートの乙女たち」1926年
（株式会社アートコーポレーション所蔵）

16社から24点の貴重な名画を提供

会社の応接室や役員室などに飾られている企業所有の名画を公開し、広く一般の人たちに鑑賞してもらおうという「なにわの企業が集めた絵画の物語」展が、昨年10月4日から15日間、堂島リバーフォーラム（大阪市福島区）で開催されました。

関西経済同友会が主催する同展は、市民の芸術文化への関心を高めるとともに、2021年に開館する大阪中之島美術館への提案として実施された社会実験です。気軽な美術鑑賞の機会を提供することに加え、まちの発展のために芸術活動を支えてきた企業家精神をいまいちどよみがえらせ、子供たちの美術鑑賞教育にも役立てるのがねらい。マリー・ローランサン「ボートの乙女たち（1926年）」（アートコーポレーション株式会社）や、藤田嗣治「母と娘（1964年）」（株式会社大林組）、山口華陽「虎児（1957年）」（丸一鋼管株式会社）など、同友会の会員企業16社から24点の貴重な作品が寄せられました。

フィランソロピーの精神をよみがえらせる

開会にあたり、総合監修を行った美術史家の橋爪節也氏（大阪大学教授、元・大阪新美術館建設準備室学芸員）は、「優れたミュージアムは都市を輝かせ、その存在は市民の誇りでもある。大阪新美術館（大阪中之島美術館）も都市を輝かせ、市民の宝となる美術館であってほしいし、私たちも進んでそれを応援しなくてはならない。この展覧会はそうした思いで開催された」と語りました。続けて「例えば大阪市中央公会堂は株式仲買人の岩本栄之助の寄付によって建設されたし、大阪府立中之島図書館は住友家、昭和初期の迎賓館・綿業会館は東洋紡績の岡常夫専務取締役の遺族と関係企業の寄付によってつくられた。このように、大阪には企業家たちが進んで資産を寄付し、まちの礎を築いてきたフィランソロピー（企業の社会貢献）の精神が根付いている。そうした先人からの精神が、まずはささやかだが展覧会の

作品解説を行う橋爪節也氏

形でよみがえりはじめた」と、開催の意義を唱えました。さらに橋爪氏は、重要なのはアートと子供たちの接点であるとし、「海外の研究によると、幼少期に美術館・博物館に連れていってもらった子供たちは、大人になってから自分たちの子供をそこへ連れていくことが分かっている。歴史や文化芸術を愛する精神が、親から子に伝え育まれる。幼少期の教育が子供たちの将来の糧となり、社会全体の発展にも大きな影響を与えることを再認識すべきだ」と強調しました。

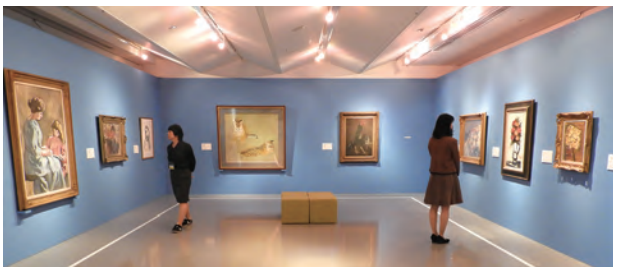
対話型鑑賞プログラムに小学生を招待

橋爪氏の監修に則り、今回の展覧会では、京都造形芸術大学アートプロデュース学科の教員・学生の協力を得て、小学生を対象とした「対話型鑑賞プログラム」が実施されました。

このプログラムはパリやニューヨークの美術館で発祥した美術教育のひとつで、絵の知識を一方的に得るのではなく、絵を観て感じたことを話し合い、多様性を認め合ったり、新たな価値を見出すことで絵画への関心を深める鑑賞法です。今回、同友会は、大阪市教育委員会の協力を得て大阪市内の小学校8校（22クラス）から725人の児童を招待しました。参加した児童（高学年）へのアンケート（自由回答）では、「みんなと絵について話し合えた（24%）」「いろいろ考えたり想像したりできた（22%）」「いろいろな絵を観ることができた（12%）」が上位にあげられました。

また、小学校へのヒヤリングでは、「本物の絵を観せることができた」「ナビゲーター（学生）がそばにいてくれたことで、普段発言の少ない子供のつぶやきも拾ってくれた」「観る→考える→話す→聞くを繰り返すことで、観察力、思考力、コミュニケーション力が育っていくのではないかと思った」「子供たちの相手の意見を尊重する気持ちと、自分の感覚を大切にする気持ちが育っていくのではないか」などがあげられ、今後もこうした展覧会を継続してほしいとの要望もありました。

小学生への対話型鑑賞プログラムのようす



会場風景

連携イベント「福島アートバル」も実施

同友会は、仕事帰りの人にもこの展覧会に立ち寄ってもらいたいとの思いから、午後8時まで開館しました。そこでこれを契機に、展覧会の成功と地域活性化、新たなPRや集客方法の開拓を目的として、期間中、周辺の飲食店16店と連携した「福島アートバル（関西・大阪21世紀協会主催）」も同時開催されました。

展覧会の入場券（1枚500円）とバル加盟店で使える食事券（2,000円分＋ウエルカムドリンク2杯サービス）がついたチケットを2,000円で販売するもので、協会の佐々木洋三専務理事は、「美術鑑賞とレストランなどでの飲食をセットで楽しむナイトカルチャー創出の社会実験として実施した。参画されたお店は、大阪中之島美術館を自分たちのまちの誇りとし、文化の香るまちづくりにしようという私たちの呼びかけに共感していただいた。今回の展覧会と併せて地道な活動だが、新美術館の誕生を応援したい」と、今回の成果を2021年度に開館予定の大阪中之島美術館に提案する考えを示しました。

これまでにない企画にメディアが注目

総来場者数4,636人のうち、夜間入場者の比率は22%でした。また、通常の展覧会は、1日の来場者数が30～50人、チケットを購入して入館する人は50～55%といわれる中、今回の展覧会は1日平均260人（対話型鑑賞プログラムを除く）、有料率は73%を達成しました。これは、通常の展覧会ではテレビ報道が0もしくは1件程度といわれる中、テレビ・ラジオ10件、新聞18件、ネットニュース12件と数々報道されたことによるパブリシティー効果（広告料換算で推定5,000万円）の結果です。それほど今回の展覧会や福島アートバルは、これまでにない試みとしてメディアに注目されました。実際、来場者アンケートでは、新聞やテレビの報道で知って来場した人が51%にのぼりました。

株式会社りそな銀行

副会長
池田博之氏

地域と共鳴するプロジェクトを率先して推進

ラテン語の「共鳴する（Resona）」が社名に含まれる「りそな銀行」。2003年、公的資金が投入された同社は、それを機に信頼と業績の回復をめざして「REENAL*プロジェクト」を推進。地域社会の活性化に貢献するさまざまなアイデアを実行に移し、経営の安定化とさらなる発展につなげた。その陣頭に立ってきた同社の池田副会長に、地域と共鳴する社会貢献活動や、関西経済同友会代表幹事としての関西・大阪の発展への思いなどを伺った。

*REENAL（リーナル）…RESONA（りそな）とREGIONAL（地域）を組み合わせた造語。

文武両道に励む

福岡県で生まれた私は、小学生の頃ソフトボールチームに所属し、北九州大会で3位に入りました。中学生になると卓球部に入り、ラケットを握る指が曲がるほど練習した甲斐があって新人戦で優勝。高校（県立熊本高校）では山岳部に入って阿蘇山を庭のように徘徊し、3年生のときにはリーダーとしてインターハイにも出場しました。登山は今でも続けています。振り返ってみると体育会系一辺倒ですが、小学生のときはブラスバンドでメロフォンを3～4年間担当したこともあります。テストの成績もわりと良かったですね。何事も集中力をもってとことんやり通したいという性分は、学生時代の活動を通じて培われたように思います。

集中力と突破力

入社してすぐに東京の支店に配属されたものの、私は事務仕事が好きになれず悶々としていました。そうして3年目、憧れの外回り営業を担当することになりました。しかし当時、東京で大和銀行の知名度は低く、新規契約どころかどこへ行っても門前払い。そんなある日、訪問先の入口でその会社の取締役営業部長に偶然声をかけられました。営業マン同士だと何か通じ合うものがあるのでしょうか、私はこのチャンスを逃がすまいと、お客さまの話を一言一句書き留め、その会社の利益になることを必死に考え、提案しました。そうした熱意が伝わったのか、お客さまからご愛顧をいただくことができました。

とはいえ入社3年目の若手社員でしたので、お客さまの質問に答えられず冷や汗をかくことも度々ありました。トレードチャージだの、メールイントだの、外国為替に関することは苦手で、外為の担当者に教えを乞うたり、本を読んだりして本気で勉強し、お客さまには即座に回答するようにしました。集中力で何がなんでも突破しようとする性分なんですね。

REENALプロジェクト

2003年、りそな銀行に公的資金が投入されると、新聞やテレビで「りそな銀行が国有化」などと報道され、お客さまに多大な不安や不信感を与えてしまいました。失墜したブランドの信頼を回復することは喫緊の課題でしたが、公的資金の返済がありますから、テレビCMを打つようなお金のかかることはできません。当時、りそなホールディングスの企画部にいた私は、お金をかけずにできるさまざまなことを考えました。

例えば「REENAL」プロジェクトにおいて、2004年、関西で幅広いリスナーをもつ株式会社FM802と提携し、りそなとアーティストをつなぐキャッシュカード「RESONART（りそなーと）カード」を発行しました。FM802は、才能あるアーティストを発掘して局のビジュアル制作などに採用する「digmeout（ディグミーアウト：私を発見して）」プロジェクトを推進しており、当社は、これに参加する関西在住アーティストの作品をカードのデザインに起用したのです。この結果、78万枚ものカードが新規発行され、アーティストに活躍の場を提供するとともに、当社のキャッ

シュカードが多くの人や企業に注目されることでブランドイメージの回復にも貢献できました。また同年、天神橋筋商店街の活性化に寄与できればと、この商店街に隣接する支店のみで取り扱う天神橋筋商店街限定の定期預金『百天満天百』をつくりました。地元のイラストレーターに通帳のデザインを依頼し、大阪天満宮の朱印が押されたオリジナル証書袋つきで500口座のみの限定でしたが、マスコミで取り上げられたこともあってすぐに完売しました。

2007年には、FM802と協力して行った万博記念公園でのフリーマーケットで、「水筒を持参すると、オリジナルステッカーがもらえる」という環境キャンペーンをラジオで呼びかけたところ、当日は水筒持参の人が1000人も集まりました。環境意識の高まりを受け、その後、魔法瓶メーカーは「マイボトルキャンペーン」をはじめられて売上を相当伸ばしたようです。このように異なる分野の人々と接し、ネットワークを拡げてその人たちのニーズを把握し、知恵を絞ってソリューションを探すことが大切です。

将来の糧につながる種まき

REENALプロジェクト以外でも、2004年から「りそなキッズマネーアカデミー」という小学生を対象とした金融教育を行っています。子供たちを最寄りの支店に招き、お金の役割や働くことの大切さを説明したり、お札の勘定の仕方やATMの構造などを見てもらったりします。こうした社会教育活動を続けることで、保護者や先生から当社に対して好印象を持っていただくことができました。

これらの活動が銀行の業績に直接つながることはありませんが、地域における企業活動の可能性を広げることは銀行の役割の一つですし、さまざまな人や企業を結びつけるなかで当社が存在感を示せたことは嬉しいことです。

また、私はよく支店長たちに、中長期的な計画を立てるという意味で「今日のメシではなく、明日、明後日のメシをどうやって食べていくのかを考えなさい」といいます。銀行の信頼やブランドイメージの回復のバロメーターは口座数や預金残高が増えることですが、それは一朝一夕にできるものではありません。それにつながるさまざまな種まきを常に考え、繰り返し実行することで、銀行としてサスティナブルな発展につながっていくのです。そのためには、REENALプロジェクトのような柔軟な発想力をもって取り組むことが大事だと考えています。

アジア・オセアニア地域の平和と繁栄に貢献

りそなグループが行うグローバルな社会貢献活動の一つに、りそな銀行が出捐する「公益財団法人りそなアジア・オセアニア財団」があります。アジア・オセアニア地域の平和と繁栄を願い、友好のかけ橋を架けていきたいとの思いから、1989年に設立し2018年で30周年を迎えました。深刻化する環境問題の解決に向けた研究や活動への支援、国際交流、国際会議の開催などを行い、これまでに約500の団体や人の活動を助成してきました。

そして、助成した団体の活動内容の一部については、実際に自分の目で見るようにしております。カリマンタン（インドネシア・ボルネオ島）では、農地開拓のための伐採や森林火災などによってジャングルが広範囲にわたり消失し、生息地を奪われたオランウータンは絶滅の危機に瀕しています。それを保護するために現地で植樹活動をしている日本のNPOやNGOがあります。2018年、私は大きなワニが浮かぶ川をボートで遡って村に入り、小さな太陽光発電しかない小屋に泊まって、その日本人の活動を実際に見て参りました。また、ネパールの山奥に行き、納豆菌を利用して水を浄化するプロジェクトも視察しました。微力ではございますが、財団の助成活動が地域の社会課題の解決に向け貢献できることを願うとともに、こうして現地に足を運ぶことで、SDGs*の重要性を痛感しています。

*SDGs（Sustainable Development Goals）… 2015年の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するために設定された開発目標。2030年をゴールとして、貧困や教育、環境など17の解決すべきテーマがある。

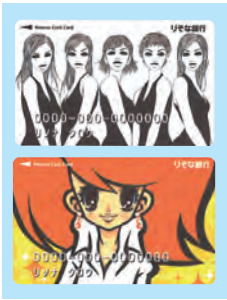
実装実践で関西の活性化を

2019年、私は関西経済同友会の代表幹事に就任して2年目を迎えます。同友会は非常に質の高い提言団体で、これまで先輩諸氏が進めてきた万博誘致が実現し、IRも大阪は最有力候補の一つとみられております。また、永年課題であった交通インフラのミッシングリンク（未整備路線）の解消なども動きつつあります。

私も先輩方が築かれた路線を引き継いでいきたいと思っておりますが、提言だけではなく、行政にしっかり働きかけたり、それでもだめなら私たちがいろんな企業を巻き込んでやってみたりと、実際に装備につなげる「実装実践」もやっていきたいと思っています。実際、同友会の関西ブリッジフォーラム推進委員会では、起業して間もない若いベンチャー経営者の思いをじかに聞いてアドバイスもしています。人や情報をつなぐことは、お金をかけずに私たちも手弁当で協力できます。そうして関西ひいては日本の活性化に寄与していきたいと願っています。

屋久島での池田博之氏
（2018年5月）

RE!SUITOUキャンペーン
（2007年／万博記念公園お祭り広場）



RESONARTカード（2003年）

財団の助成事業であることを示す標識

カリマンタン・ジュルンブン地区での森林消失状況。ここで植樹活動が行われている。
（りそなアジア・オセアニア財団提供）

（写真提供：株式会社りそな銀行）

池田博之氏
1960年福岡県出身。1983年横浜国立大学経営学部卒業後、大和銀行（現りそな銀行）入社。同常務執行役員、近畿大阪銀行代表取締役社長、りそな銀行代表取締役副社長兼執行役員などを経て2018年より現職。関西経済同友会代表幹事。

株式会社りそな銀行
本店：大阪市中央区備後町2丁目2番1号
1918（大正7）年5月15日設立（営業開始日2003年3月3日）。資本金2,799億円。株主（持株比率）株式会社りそなホールディングス（100%）。有人店舗数326店。（2018年9月現在）

第20回記念「上方花舞台」

歌舞伎と日本舞踊の競演

2018年9月20日・21日（3公演）／国立文楽劇場
主催：公益財団法人関西・大阪21世紀協会　上方文化芸能運営委員会
協力：松竹芸能株式会社、株式会社藤間オフィス、株式会社アロープロモーション
構成・演出：藤間 勘十郎

当協会の上方文化芸能運営委員会は、上方文化の伝承と振興に力を注いでいます。第20回記念となる今回の「上方花舞台」では、3部構成による歌舞伎と日本舞踊の競演を、2日間・3公演で1,900人を超える観客の皆様に楽しんでいただきました。

撮影:©越田悟全

第一部 長唄「三番叟」

登場するのは翁（市川猿之助）と千歳（藤間勘十郎）と二人の三番叟（若柳吉蔵、尾上菊之丞）。翁太夫は千歳から渡されたご神体である面（おもて）をつけることで「翁」に変化し、国がますます栄えるようにと寿いで舞います。同じく黒尉の面をつけた三番叟は五穀豊穣でありますようにと、種まきを思わせる所作で「鈴の段」を舞います。

素踊りで上演したこの演目は、常磐津や義太夫などさまざまな三番叟の曲の良い部分のみを抜き出し、長唄の曲として補強したものです。<歌舞伎>と<日本舞踊>、<江戸>と<上方>の競演となり、この公演にふさわしい幕開けとなりました。

若柳吉蔵（左）と尾上菊之丞（右）

市川猿之助（右）と藤間勘十郎（左）

第二部 長唄「石橋（しゃっきょう）」

能「石橋」から歌舞伎舞踊に取り入れられた演目。寂昭法師が細く苔むした石橋を渡ろうとすると、菩薩さまにお仕えする獅子の精が現れ、咲き乱れる牡丹の花と戯れて豪華絢爛に舞います。それは菩薩さまが現れる前兆と感じられます。

親獅子（尾上右近）、仔獅子（中村鷹之資）、女獅子（中村梅丸）の三人連獅子の趣向に6人の若手舞踊家が胡蝶の精（花柳禮毬、花柳双子、花柳女雛、楳茂都梅弥月、若柳舞生、若柳弥天）となって絡む構成で、楽曲も歌舞伎の名作を集めて構成した本公演のための作品です。歌舞伎若手花形と女流舞踊家陣の華やかな競演となりました。

尾上右近（中央）、中村鷹之資（右）、中村梅丸（左）による三人連獅子

女流舞踊家陣（胡蝶の精）との競演。
尾上右近（奥中央）、中村鷹之資（同右）、中村梅丸（同左）

第三部 長唄「黒塚（くろづか）」

芒（すすき）が生い茂る野原にたつ粗末な一ツ家に、阿闍梨祐慶（藤間勘十郎）とその一行（尾上右近、中村鷹之資、中村梅丸）が宿を求め訪れます。主である老女岩手（市川猿之助）は、流罪となった父と共に陸奥をさすらい、夫に捨てられた身の上を語り、人を恨む気持ちが捨てられず成仏できないだろうと悲しみます。祐慶は仏の功徳によって必ず成仏できると説き慰め、岩手は心の憂いが晴れたと喜びます。夜が更けて、祐慶一行に閨（ねや）を覗かぬよう念を押した岩手は薪を取りに裏山へ出かけます。供の強力が約束をやぶり閨の内を覗くと、そこにはたくさんの人骨が。岩手は安達ケ原の鬼女だったのです。

一方、祐慶の教えで長年の苦しみから解放された岩手は、月明かりの中一面の芒野原で、童心に返って踊ります。そこへ慌てふためいて逃げてきた強力に出会い、閨を覗かれたと怒り悲しんだ岩手は鬼女の本性を顕わして姿を消します。再び姿を現した鬼女は、芒野原で祐慶一行に襲いかかりますが、法力で祈り伏せられてしまうのでした。

二世市川猿之助によって初演された本曲を当代猿之助が大阪で初めて演じました。特別演出として旅僧は能装束・直面（ひためん）にて勤め、老女は歌舞伎衣装という試みで、歌舞伎舞踊を能楽・狂言等々の他のジャンルと共演することや新演出などで、さらなる進化を目指す意欲作となりました。

岩手（市川猿之助）

芒野原で祐慶一行に祈り伏せられる鬼女（岩手）
左から中村鷹之資、市川猿之助、中村梅丸、
藤間勘十郎

阿闍梨祐慶とその一行が宿を求め訪れる
左から尾上右近、中村梅丸、藤間勘十郎、中村鷹之資

月明かりの芒野原で佇む岩手（市川猿之助）

関西・大阪21世紀協会は、「助成と顕彰」、「関西・大阪ブランドの発掘と発信」、「伝統の進化と創造」の3つを事業の柱としています。その中から、昨年7～10月に実施された事業のいくつかをご報告します。

ART stream

海外アーティストを含む総勢82組 アートストリーム2018

2018年9月28日～29日／大丸心斎橋店
主催：アートストリーム実行委員会（大阪芸術大学、大阪府、大阪市、関西・大阪21世紀協会）

大阪から新たな潮流（ストリーム）を起こそう

関西を拠点に活動するアーティストやクリエイターに、発表の場と飛躍の機会を提供する「アートストリーム」。大丸心斎橋店を会場に作品の展示と即売を行うもので、2003年にスタートし、今回で18回目を迎えました。

今回は一般公募で選ばれた81組、ゲストアーティスト1名（2017年アワードグランプリ受賞者）が出展。台風の接近で開催日を1日短縮したにもかかわらず、2日間で延べ約3,000人の来場者で賑わいました。また、前年に引き続き韓国、さらにイタリア、台湾からも参加者を迎え、国を超えて交流の輪を広げました。

COMIC HEADSの受賞作とソウタさん（右）、トリコさん（左）

ジャンルは絵画、版画、書、彫刻、オブジェ、インスタレーションなど多彩で、その中から審査委員の選考により、最高賞のグランプリ（賞金30万円）がCOMIC HEADS（コミックヘッズ：ソウタさんとトリコさんの男女2人で構成するアートユニット）に贈られました。受賞作は、アメリカのサスペンス映画『ノーカントリー』に登場する悪役をモチーフに、砂漠を移動する殺し屋の表情が時間経過とともに変化する様子を、約1.5m四方の大きなビニールキャンバス2枚で大胆に表現。審査委員長の絹谷幸二氏（洋画家・文化功労者）から、「大きな作品を物怖じせず描ききり、一目で心を打つ迫力がある。画面を貫く直線が遠近を表現するなど、絵画手法にも深い読みを感じた」と高く評価されました。人物画を得意とするソウタさんは、大阪芸術大学を卒業後、作家活動に入って7年目。独特な抽象表現を得意とするトリコさんは、ロンドンのアートカレッジを卒業して2012年から大阪で活動を開始しました。二人は「高く評価していただいてとても嬉しい。将来は世界にも進出していきたい」と声を弾ませました。

川瀬大樹さん（関西・大阪21世紀協会賞）と作品

また、奨励賞（賞金5万円）は小笠原悠さん（クラフト）、CHAOSMOS（カオスモス）・冨岡雅寛さん（オブジェ）、Rhaomi（ラオミ）さん（韓国・絵画）の3人に贈呈。仕事のオファーや個展開催などの副賞がついた「企業・ギャラリー賞（22件）」は川瀬大樹さん（絵画・関西・大阪21世紀協会賞）ら17組（18人）に贈られ、来場者の投票による「オーディエンス賞」には、ファッションイラストのSamille（さみぃゆ）さんが選ばれました。

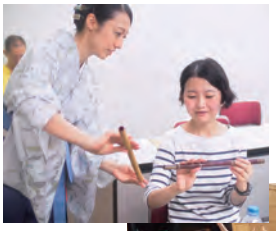
表彰式で佐々木洋三実行委員長（関西・大阪21世紀協会専務理事）は、「今回も海外アーティストが参加し、文字通り大阪からアートのストリーム（潮流）を起こすイベントに成長してきた。大阪には、木村兼葭堂（けんかどう）、山本發次郎、岩本栄之助など、民が文化を牽引する伝統があり、そのDNAは現在も脈々と受け継がれている。今後も関西・大阪で活躍するアーティストと企業の皆さんの豊かな感性と創造力で、大阪から新たなアートの潮流を起こしていきたい」と語りました。

会場風景

1講座500円×123種類の体験型講座
WORKSHOP FESTIVAL DOORS 12th

2018年7月28日～31日、8月3日～5日（大阪市立芸術創造館など4か所）、8月25日・26日（西宮市民会館）
主催：IWF実行委員会（関西・大阪21世紀協会、アートサポート共同事業体）

「文化は人がつくる」をコンセプトに、多くの人が気軽に参加できるライブコミュニケーションの場を提供することを目的として、12年目を迎えたドアーズ。今回も伝統芸能から現代アートまで、さまざまなジャンルのワークショップ全123講座が開講されました。大阪会場91講座（旭区民センター・大阪市立芸術創造館、メビック扇町、大阪府立江之子島文化芸術創造センター、クレオ大阪南）と西宮会場32講座（西宮市民会館）で開催され、5会場合わせてのべ1,705人が参加。受講者は小学生から60代まで幅広く、受講後のアンケートではなんと90%の人が「満足」と答え、次回の開催を希望する声が73%もありました。



ワークショップの様子

交流サロン21cafe ガストロノミーとこれからの食文化

辻 芳樹氏（学校法人辻料理学館 理事長、辻調理師専門学校 校長）
2018年10月16日／中之島センタービル

ガストロノミー（美食学、美食術）は、19世紀初頭以降にフランスで発展した学問。料理と食は文化の一部であると位置付け、おいしい料理や豊かな食を通して社会や産業の発展を図ろうとする研究や活動です。辻氏は、近代フランス料理の食材や味付け、調理技術などの変遷と、そのなかで日本料理がどのような影響を与えたのかについて数々の具体例を示して解説。1960年代と現代の創造的な料理やデザートを示し、50年以上にわたる美食の歴史の流れはガストロノミーの変遷であるとしました。そのうえで辻氏は、私たちは、和食によって世界に何を発信していくのかが問われる時代がきたと指摘しました。

辻 芳樹氏

講演の様子

元禄時代に起源をもつ賑やかな伝統行事 今宮戎神社十日戎「宝恵駕（ほえかご）行列」

2019年1月10日／道頓堀～今宮戎神社

今宮戎神社「十日戎」の奉納行事として、大阪府無形民俗文化財に指定されている宝恵駕（ほえかご）行列。元禄時代に花街の集客や商売繁盛を祈願してはじまり、現在は地元商店会や経済界などの協力により、その伝統が受け継がれています。今年は芸妓代表の佳世子さんを先頭に、歌舞伎俳優の中村鴈治郎さんや日本舞踊・山村流六世宗家の山村友五郎さん、OSK日本歌劇団の桐生麻耶さん、NHK連続テレビ小説『まんぷく』に出演中の藤山扇治郎さんらが続き、2時間にわたり沿道の歓声をあびながら練り歩きました。関西・大阪21世紀協会　上方文化芸能運営委員会は、宝恵駕振興会実行委員会の役員を務め、実施運営に携わっています。

芸妓代表の佳世子さん

ミナミの商店街に繰り出す宝恵駕行列

新刊のお知らせ

【関西・大阪21世紀協会編著】
歴史は生きている 最新フィールドノート

なにわ大坂をつくった100人 17～19世紀篇

古代から近世まで、なにわ大坂にゆかりの深い100人の足跡を訪ね、今日どのように語り継がれているのかをルポルタージュするシリーズの第3弾。本書では17～19世紀に活躍した37人を収録しました。既刊の「古代～15世紀篇（31人）」「16～17世紀篇（32人）」と合わせ、本書で100人を取り上げたことになります。発刊は今年3月を予定。発売日は、協会ホームページなどでお知らせいたします。

主な掲載人物

坂田藤十郎（初代）、竹本義太夫（初代）、近松門左衛門、三宅石庵、天野屋利兵衛、鴻池善右衛門（三代）、富永仲基、麻田剛立、木村蒹葭堂、中井竹山、三好正慶尼、草間直方、緒方洪庵、上田秋成ほか

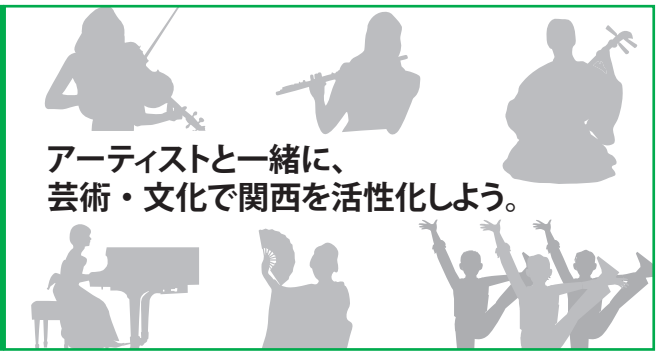
既刊「古代～15世紀篇（1,600円＋税）」「16～17世紀篇（1,800円＋税）」は、大阪府内書店、Amazonなどで発売中。

＊書店にない場合は、書店にてご注文いただくか、発行元（株式会社澪標）にご注文ください。

発行元：（株）澪標（みおつくし）
大阪市中央区内平野町2-3-11-203
TEL.06（6944）0869　FAX.06（6944）0600

Arts Support Kansai

サポーターズクラブ
法人サポーター募集



芸術・文化は創造性を育み、新たな発想や革新をもたらします。そうした芸術や文化を皆様の寄付で支援しているアーツサポート関西に、新たに法人サポーター制度が誕生しました（年会費50,000円）。これまで個人のサポーター向けに行ってきた支援アーティストが出演する舞台やイベントへの無料ご招待に加えて、アーティストたちがサポーター企業へ出向いてパフォーマンスを披露したり、企業のイベントなどに参加するなど、芸術・文化の楽しみ方がより一層広がります。

法人サポーターの会費は全額がアーティスト支援に活用されるほか、会費は寄付金扱いとなり、税の優遇措置が適用されます。

一人でも多くのアーティストを支援するために、そしてこの取り組みを未来につないでいくために、皆様のご協力をお願いいたします。

●法人サポーターは1口50,000円
（口数制限はありません）。
●税の優遇措置が適用されます。
法人の場合…寄付金が損金に算入されます。
個人の場合…所得控除または税額控除のいずれかが選べます（確定申告を行う必要があります）。

※詳しくはASKホームページをご覧ください。
http://artssupport-kansai.or.jp/

パトロンプログラム
助成先の団体が行う公演やコンサート、展覧会などへのご招待、ご参加を募るもので、アーティストたちと交流するパーティーなども開催します。

アーティストが企業を訪問
アーツサポート関西の支援を受けたアーティストが「アンバサダー」となって会員企業を訪問。パフォーマンスを披露します。

イベント無料招待
ASK成果報告会やファンドレイジングパーティーなどの有料イベントに無料でご招待いたします（招待人数には制限があります）。

ASK感謝のつどい

アーティストと支援者の交流の場として開催。支援者たちは、新進ヴァイオリニストの内尾文香さんの演奏を間近で聴きました。（2016年3月23日／梅田クリスタルホール）

上方落語若手噺家グランプリ

「寺田千代乃 上方落語若手噺家支援寄金」をもとに2015年にスタート。チケットが即日完売するほどの人気企画になりました。（寺田千代乃氏〈右〉から賞金を受ける桂吉の丞さん／2015年6月23日・天満天神繁昌亭にて）

お申し込み方法や詳しい内容につきましては、ASK事務局までお問い合わせください。

アーツサポート関西事務局　TEL 06-7507-2004　Email　ask@osaka.21.or.jp
〒530-6691 大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル29F　公益財団法人関西・大阪21世紀協会内

関西・大阪21世紀協会賛助会員 入会のお願い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会　費（何口からでも結構です）
■法人会員1口につき年会費10万円
■個人会員1口につき年会費1万円

特　典
1.協会が発行する刊行物の配布
2.協会が主催する各種セミナーなどへの案内
3.賛助会員の参考となる情報・資料の提供など

お問合せ（公財）関西・大阪21世紀協会　総務部

公益財団法人
関西・大阪21世紀協会
ホームページ　http://www.osaka21.or.jp
発　行　日／平成31年1月25日
編集・発行／公益財団法人 関西・大阪21世紀協会
〒530-6691 大阪市北区中之島6丁目2番27号 中之島センタービル29階　TEL.(06)7507-2001 FAX.(06)7507-5945
発　行　人／佐々木洋三　編集協力／株式会社インサイト　印刷／東洋紙業株式会社